

合宿について

○合宿初日の7月24日朝の集合時刻を
8:30に変更いたします。

○お子さんの体のこと、配慮が必要なこと
について必ず担当学年のコーチに伝えて下
さい。

○合宿所グランド周辺の駐車場には限り
があります。去年は周辺の住民から苦情があ
ったとのこと。乗り合わせての参加を
お願いいたします。行き帰りのバスは空席
があります。

09・7・11 (土)
南NEWS NO15

自分を大切にしよう！南も大切にしてほしい。

7月5日のこと。3年生の愛宕招待の応援に出かけて、その後の用事を済ませた帰り道、赤いTシャツを着た自転車の集団が結構なスピードで交差点を曲がって車1台しか通れない狭い道に進入してきました。我が愛する南の子どもたちでした。

2人、ノーヘルがいました。私はウインドウを開けて、「ヘルメット！」と怒鳴ってしまいました。家に帰ってから（サッカーも上達し、成長している〇〇君と◇君が何故分からないのだろう）と残念で、悔しくてなりません。

NEWSにヘルメットのことを書くのは今年度は2度目です。もし、練習等の行き帰りで事故があって、大切な命、体にもしものことがあれば、南の活動も続けられなくなってしまいます。自分を大切にしてください。自転に乗るときはヘルメットをかぶってください。スピードも考えてください。約束を守ってください。

南がボールを用意して、個人的にボールを持ってこさせないのも、もし、行き帰りの道でボールが道路に転がって、それを追って飛び出すことを心配するからです。南の練習がなかったら、事故に遭わなかったということにもなりかねません。

コーチの皆さんは、一生懸命、皆さんの成長を願って毎週の練習や試合の指導をしてくださっているのです。おうちの人も後援会、学校、地域の皆さんも同じです。そのことを考えてください。自分を大切に、南も大切にしてください。

何年か前のことですが、ヘルメットをかぶっていたのでかすり傷で済んだということが実際にありました。

来年の春、
「みんなよくGAMBAったね。しっかり成長してくれたね。とっても嬉しいよ」と喜びいっぱいの気持ちで送り出したいのです。

お知らせ

8月23日 由井三小校庭や通学路の草刈りがあります。
南が練習している校庭や通っている通学路です。みんなで参加しまし
よう。

○8月23日(日) AM8:30～am0:30 雨天 8月30日(日)
ほうき、かま、ちりとり、熊手、軍手、タオル等のできるものの用意を。

うれしかったよ！

7月8日(水)、午後練が終わり、1・2年生の子どもたちに
「気をつけてお家に帰ろうね。帰ったら勉強をしようね。お手伝いしようね」と言いますと、

「はい。本も読むんだよね」と元気に言ってくれた子がいました。

「〇〇君、いいこと言ってくれるね！」

学校ではいろいろと腕白をしている男の子です。大好きなサッカーを楽しむ中で成長しつつあるんだなと想いました。とっても嬉しくなりました。



7月8日(水)、勤務校の図書室で本を読んでいると、昨年度臨時担任として教えた5年生の女の子が私の所へやってきて

「先生が好きそうな本だよ」

と言って、渡してくれたのがこれから紹介する

二十一世紀の君たちへ『ガラスの地球を救え』 手塚 治著 光文社

です。

子どもの時から大好きだった手塚 治さんの本です。読んだことのない本でした。授業のない時間だったので3分の1ほど読んで、早速本屋さんで2冊注文しました。他の学校の先生にも紹介したいからです。

一部紹介します。

P55～P56 「夢と冒険に生きる子に」より

大人だってこれまで満足な人生を送ってきたとは限りません。でも、ささやかでも自分がこれまで生きてきた体験を通して、いちばん自分にとって大切なことを子どもに語りついでいてほしいとぼくは思っています。同じ人としての土俵の上で、夢をぶつけ合い、信念を語り合いたいと思うのです。と同時に、現代の教育はどこか衰弱しているというか、勘違いでもしているような気がします。「人間らしい生活を見直そう」と言うかけ声は大きくても、効果は少しも上がっているようには思えません。一つには、幼児期からそのような教育がなされていないことに原因がある。偏差値偏重で「いい」幼稚園、「いい」学校に入学するための知恵ばかり吹き込まれていて、幼・少年期のみずみずしい感性を、せせこましいものでいっぱい封じ込めてしまっているようです。

生命はかけがいのないもので、どう転んでも人生はたった一度だけであり、そして、人類と同じように価値のある生命が自然界に満ち、それらが密接にありとあらゆる形で相互に生かし合っていること、また地球は人類はもちろんのこと、生物にとって絶対不可欠の星であることを熱意をもって、幼い時から語りかけていきたいと思えます。

こんなことは、分かり切ったことかもしれませんが、けれども、このあたりまえなことへの感動を、何度でも呼びさまさねばならないのは、ぼくたち大人自身だろうと思われま。

幼い頃から命の大切さ、生物をいたわる心をもつための教育が徹底すれば、子どもをめぐる現在のような悲惨な事態は解消していけると信じます。

抜粋の最初の部分は、南のコーチの皆さんの子どもたちへの熱い指導を想い浮かべながら読みました。お貸ししますのでお家の人もぜひ読んでください。5・6年生にも読んでもらいたいと思います。438円の文庫本です。夏休みの課題図書として購入し、何度も読むのもいいですね。